

三島北高、「水」の学習発表

英語スピーチも

県内で唯一のスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定されている県立三島北高校の生徒たちが23日、指定初年度の学習成果報告会を沼津市のプラサヴェルデで開いた。生徒たちは地域と世界の「水問題」をテーマに、英語のスピーチやポスター発表など

の形で「私たちの考える水問題」を訴えた。

文部科学省が将来国際的に活躍できる「グローバルリーダー」の育成を目指すSGHは全国で56校あり、県内では三島北高が唯一の指定校。同高は2014年度から5年間、世界的な社会問題である「水」をテーマにした課題解決型の学習に取り組む。

水資源に恵まれた地元の

特性をふまえ、世界の水問題に詳しいジャーナリストの橋本淳司さんらを外部からアドバイザー役に招き、15年度から学校独自の教科を設ける。企業や大学、海外での研修の機会も用意。生徒の論理的思考力や伝達力、社会問題への関心や国際感覚を高めるといふ。

生徒たちはこの日、英語劇や英語のプレゼンテーション、ポスターなどで成果

を報告。中村友美さん（1年）は「水問題はひとつのことではない」と英語でスピーチした。

工藤由佳さん（2年）は「パーチャル・ウォーター（仮想水）」という概念を紹介。水資源が一見豊かに見える日本人の暮らしは輸入食料に頼っており、海外で食料生産に必要な水資源を大量消費していると説明した。



水問題は他人事ではないと英語で訴えた中村友美さん。沼津市大手町1丁目